

平成29年度 新見第一中学校経営計画書

◎ 本校のミッション（使命、存在意義）

- 1 様々な体験を通じて豊かな心と健やかな体を養い、社会の変化に対応して柔軟でたくましく生きる子どもを育成するための教育を推進する。
- 2 職員の研修を深め、学習指導や生徒指導等を充実させることに力を注ぎ、生徒に社会人としてふさわしい資質や学力を身につけさせる。
- 3 地域・保護者と連携を深め、互いの信頼関係に基づく学校づくりを進める。

◎内外の環境分析

- 1 内部環境及び生徒の実態等
 - ・個々の生徒によって意識にばらつきがあるが、集団としての規律や礼儀は高まっている。
 - ・アクティブ・ラーニングの導入で、対話力・学習意欲の高まりが見られるようになった。全国学力・学習状況調査では、国語や数学の学力の定着不足が明らかになった。小学校とも連携をとりながら、学校と家庭の両面で主体的な学習への取り組みを充実させる必要がある。
 - ・生徒の道徳的判断力は徐々に身に付いており、内外のボランティア活動に参加する生徒も見られるようになった。
 - ・教育活動全体を通して、必要な体力や精神的なたくましが身に付いており、学校生活充実の一つの要因になっている。
 - ・相手を思いやり大切にする精神が高まり、好ましい人間関係作りがなされている。話す・書くなどのコミュニケーション力にはばらつきがある。
 - ・特別支援教育に関しては、個別の指導方針で連携しながら教育活動を行なっている。普通学級での要支援生徒に対しては、共通の指導方針が確立されておらず、課題が残る。
 - ・多くの生徒がSNSを利用している実態があり、家庭と連携してルールやマナーを徹底する必要がある。
 - ・OJTでの意図的な組織力強化で、学校としての意向が全職員に迅速に伝わる協働体制ができた。
 - ・アクティブ・ラーニングの実践に向けて校内研修を行なった。教師の力量には差があるが、自主研修やOJTでの研修を通して研鑽する姿勢が見られた。
 - ・教育設備はICT機器を中心に充実している。体育的施設は十分な広さがあるが、多目的に使える特別教室が不足している。
- 2 外部環境
 - ・地域の中心にあり、伝統のある学校という思いが強く、常に注目を浴びる存在になっている。
 - ・保護者は学校教育に対して多様な考えを持っているが、学校と家庭が連携して生徒の健やかな成長を願うという点では、協力体制ができています。
 - ・多くの生徒が自転車通学をしており、交通ルールに関して課題が残る。4路線の通学バスを利用しており、家庭・学校・バス会社の緊密な連絡が重要となる。
 - ・学校支援地域本部事業のボランティアとして、地域の人材を教育活動に生かしている。支援分野に偏りがあるので、幅広い分野の人材を確保する必要がある。
 - ・高校との連携が確立され、学習支援での人材活用が実施できるようになった。
 - ・関係機関とは担当主事を中心に定期的に連絡を取っている。地域との連携は十分とはいえず、本年度からのコミュニティ・スクール導入に合わせて、連携を強化する必要がある。
 - ・小中連携の専任教師が配置され、小学校との連携が密になり、中1ギャップを防ぐ事前の手立てを講じることができた。

◎本校のビジョン（将来像、目指す姿）

- 1 学校教育目標
『はつらつと心豊かにたくましく生きる力の育成』
- 2 校訓
『自律・協力』

3 目指す学校像

- 生徒にとって「個性や能力が伸ばせる」学校 ○保護者・地域にとって「信頼される」学校
- 職員にとって「生徒と共に成長できる」学校

4 目指す生徒像

- 進んで学習し、深く考える生徒
- 思いやりを持ち、共に生きようとする生徒
- 心身を鍛え、何事も最後までやり抜く生徒

◎当該年度の具体的な学校経営目標（短期の経営目標）

1 学習指導

協働学習を取り入れ、生徒全員が学び合いながら粘り強く課題に取り組む授業を行なう。学校と家庭の両面で主体的に学び、基礎知識を着実に修得し、その知識を次の学習に生かそうとする態度を育成する。校内研修を計画的に実施し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行ない、質の高い授業を目指す。

2 生徒指導

生徒と教師、生徒同士の相互理解を根底にすえて、人間的なふれあいの中での指導を行なう。基本的人権を尊重し、生徒の自己有用感が得られるような体験的場面を意図的に設定していく。

3 健康な生活習慣づくり

個の生徒の実態や課題を把握し、個別指導を重視するとともに、学校全体の系統立てた保健安全教育や食育、体力づくりを推進する。

4 コミュニケーション能力の育成

各教科・道徳・学級活動の中での対話や議論を通じて、自分の考えを根拠をもとに伝えけるとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを発展させたり思いやりを持って多様な人々と協働したりできる力を育成する。

5 キャリア教育の充実

系統立てた体験学習や自己啓発の学習を充実させ、情報化やグローバル化といった社会的変化に対応し、自信を持って自分の人生を切り開いていこうとする力を育成する。

6 特別支援教育の充実

特別支援コーディネーターを中心とした、学校全体での指導体制を充実させる。個別の指導計画をもとにして、個に応じたキャリア形成ができるような指導や支援を行なう。

7 ボランティア精神の育成

清掃や環境整備、学校内外のボランティア活動に積極的に取り組ませることを通して、自己の主体的な意思による行動を促す。

8 保護者・地域との連携

コミュニティ・スクールの導入を通して、学校と地域住民・保護者が協働して学校の運営に参画する仕組みを確立する。広範囲にわたる学区のそれぞれの地域資源を生かし、創意や工夫の見られる学校づくりを進める。

9 管理・運営

各分掌の業務の見直し・分掌間の連携を強化し、事務の共同実施による学校間連携も含めて、学校事務の効率化と簡略化を図る。情報セキュリティを確保し、ICT環境の安全性と信頼性を高める。教育設備のより一層の充実を図るとともに、適切な管理に努める。